

林野庁長官賞

「樹恩割り箸」が結ぶ都市・山村の交流連携
森林・環境・福祉を守る「セルフ箸蔵」
－JUON(樹恩) NETWORKの理念が普及－

社会福祉法人池田博愛会セルフ箸蔵 (代表者 理事長 俵 徹太郎)

□事業体の構成

社会福祉法人「池田博愛会」内の知的障害者通所授産施設

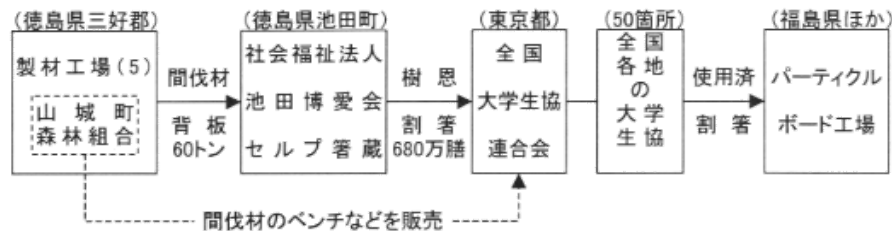
〒778-0020

徳島県三好郡池田町津井関1104-11

電話 0883-72-2291 FAX 0883-72-0345



□事業の仕組み



□事業の実績 (目的、事業内容の概要等)

(1) 事業の目的

間伐材を利用した「樹恩割り箸」の生産・供給・リサイクルを、大学生協と三好地域の林業関係者・福祉関係者の連携・交流の下で行い、三好地域の森林整備に一役かっている。

○「樹恩割り箸」の三つの理念

- ① 森林を守る 割り箸の原材料として、三好郡内の間伐材を使用し、地域の森林を守る。
- ② 環境を守る 製材工場の端材を使用すること、割り箸の使用により洗剤の使用量を減らすこと、使用済みの割り箸を回収しリサイクルすることにより、地球環境を守る。
- ③ 福祉を守る 障害者の自立支援や生きがいづくりに貢献する。

(2) 事業の内容

1995年(平成7年)の阪神淡路大震災の際に、吉野川(三好)流域林業活性化センターが、山城町森林組合の製造販売していた間伐材を利用したミニハウスを大学生の仮設学生寮として提供したことをきっかけに、大学生協と徳島県三好地域との交流が始まった。

1998年(平成10年)に、山城町森林組合が割り箸製造設備を導入し、三好郡池田町の福祉施設に袋詰めなど製造工程の一部をお願いするという方式で、「樹恩割り箸」の生産に着手し、その生産量は月産30万膳に達した。

その後、大学生協の増産要望に応えるため、2001年に、三好郡池田町の社会福祉

法人「池田博愛会」が運営する知的障害者通所授産施設「セルフ箸蔵」に割り箸製造施設と入所者等50名が生産工程の全てを担う体制を整備し、同年5月から量産を開始し、2002年度（平成14年度）には、680万膳を生産供給している。
なお、「樹恩割り箸」の名称は、森づくりボランティア等を通じた交流を続ける中で、1998年（平成10年）4月に、大学生協、山村の関係者を会員として設立された「JUON（樹恩）NETWORK」の理念を大切にしたいという思いから名付けられた。またセルフは、Support of Employment, Living and Participationの頭文字を組み合わせた造語である。

（3）仕組み

割箸の原材料となる間伐材や製材背板は、三好郡内の森林組合、製材所から納入され、地域の森林整備や林業の活性化に貢献している。

「樹恩割り箸」の生産は、障害を持つ方が担っており、働きがい・生きがいへとつながっている。

大学生協では、使用済みになった割り箸の大半を、福島県の合板工場に送り、パーティクルボードとして再生され、家具などの一部として利用されており、リサイクルのシステムが確立されている。

□事業の成果

「樹恩割り箸」には、「裸箸」と「完封箸」があり、裸箸2円8銭／膳、完封箸は2円78銭／膳と、外国産の割り箸よりも倍以上の価格となっているが、「JUON（樹恩）NETWORK」など関係者の啓蒙・広報活動により、「高くても環境によい物を使用する」ことへの理解が深まり、受注量が大きく伸びている。

生産・販売量は、平成13年度は450万膳、平成14年度は680万膳、平成15年度には720万膳の見込となっている。また、生産した箸の98%は各地の大学生協（50大学生協）へ出荷している。

入所者への手当は、当初1ヶ月約14,000円であったが、生産景が上がるにつれ、現在では約15,000円となっている。障害者の生きがいづくりと自立支援の一助となっており、地域福祉の向上に大きく貢献している。

□今後の取組み

平成15年度から、埼玉県江南町の授産施設「江南愛の家」においても、割り箸生産が開始される。

江南愛の家ではプレカット端材を主原料とするのに対し、当施設はあくまでも間伐材を主とした背板を主原料とするため、製品強度が劣る。

大学生協連等の関係者に、価格が割高になることや強度差があることなどにお一層の理解を求めていく必要がある。

また、三つの福祉施設が限界数量に近づいている生産を互いに補いあえるような協力体制づくりに取り組むこととしている。

□その他（問題点について）

- 原材料の供給確保 生産量の増大に伴う背色板等の安定供給体制づくり。
- 機械のメンテナンス 旧式な機械であるため今後の機械メンテナンスに不安を残していること。
- 製品強度の改善 スギ間伐材の背板を使用するため製品強度が不足。大径材の背板等の活用へ移行を図ること。
- 木皮、廃材の処理 バークの処理方法を解決すること。

□現地調査結果の概要

調査担当 小野田 法彦
（小野田木材経営研究所所長）
事務局 織田 克之
（（財）日本木材総合情報センター総務課長）

1. 地域の概要

徳島県三好郡は県西部の8町村から成り、四国の中心部に位置する。県を東西に流れる吉野川の上流地域にあり、林野率は86%に達する。森林面積約7万3,000haの87%が民有林であり、人工林率は64%、戦後植栽された50年生以下のスギ、ヒノキ林が大半を占める。地域の林業は盛んで、森林組合や素材生産業者の活動により、県内総生産量の46%に当たる年間13万dの素材を郡内で生産している。また郡内には地域の間伐材を利用した集成材加工施設、ログハウス工場、木材流通加工団地が整備されており、民間の製材施設と併せて年間4万m³の製材生産を行っている。

2. 事業取組みの背景

三好郡山城町の山城町森林組合では、地域で産出される間伐材を加工したミニハウスキットの製造販売を行っていた。平成7年1月の阪神淡路大震災の際、吉野川流域林業活性化センターの三好郡8町村は「阪神震災大学生寮組立ハウス三好支援実行委員会」を組織し、このミニハウス数10セットを無償提供して、宿泊場所を失い困窮していた被災地の学生達を支援した。

このことが契機となって全国大学生協同組合連合会と三好郡町村との交流が生まれ、全国的な都市と山村の交流ネットワーク「JUON NETWORK」（樹恩ネットワーク）が発足した。そしてこのネットワークの協力もあって全国各地の大学生協食堂で、徳島県産間伐材の割箸「樹恩割り箸」が使用されるようになった。

3. 「樹恩割り箸」について

(1) 原料の調達

- ① 割箸の原材料となる間伐材や製材背板は、三好郡内の森林組合、製材工場から納入され、地域の森林整備や林業の活性化に貢献している。
- ② 間伐材の背板厚5cm以上のもの。運賃は出荷者側の負担で、仕入れ単価45円（m当たり）。

(2) 割箸の販売単価と収入金額など

- ① 裸の箸 2円8銭<膳>
（スギ主体で生産量全体の70%）
完封箸 2円78銭<膳>
（ヒノキ主体で生産量全体の30%）
- ② 総売上金額は平均単価2円50銭とすると年1,800万円（2円50銭×720万膳）
- ③ 大学生協へは宅急便を利用。

(3) 販路

- ① 全体の98%は北海道大学から山口大学まで48校の大学生協（大学の食堂）
- ② 残りは一般の宿泊施設やレストラン等。
- ③ なお使い捨ての箸は各大学生協が福島県の合板工場（小名浜合板）に送り、パーティクルボードなどの原料になり、そのパーティクルボードは家具の部材になる。

4. 「樹恩割り箸」への評価

- ① 間伐材の促進や製材工場にとって大きな課題となっている背板・端材の処理・活用に大きく役立つ。
- ② 使われた割箸はさらにボード類にリサイクルされる。
- ③ 箸の生産は障害を持つ人の働きがい、生きがいとなっている（従事者は20～60歳代）。
- ④ 入所者への手当ては1万4,000円（月）だったが、生産の増強で1万5,000円（月）へと向上している。
- ⑤ 各大学生協から注文が大きく増加している。
- ⑥ 都市と山村の交流に役立つ（都市側の林業への理解が深まる）。
- ⑦ 博愛会、県、地元の吉野川（三好地区）流域林業活性化センターなどの熱意が非常に高い。
- ⑧ 大局的に展望すると間伐材の促進や、製材背板の活用が地域の木材の安定供給につながる。